

お知らせ

(1) 核データ評価研究グループ

JENDL 委員会会合から

以下に示すのは、JENDL 委員会（旧シグマ委員会）会合の議事録です。メーリングリスト JNDCmail でも議事録が配布されます。また、核データ評価研究グループの WWW から、JENDL 委員会の会合予定や議事録を見ることができます。

核データ専門部会 ENSDF グループ

2013年2月15日 午後1時30分~5時00分 原子力機構 東京事務所第3会議室 出席者 6名
--

配付資料

- (1) 平成 24 年度 ENSDF グループ活動報告と次年度以降の計画
- (2) 評価方法についての BNL からの連絡
- (3) 質量評価 2012Wa38 について

議事：

(1) 作業状況の確認

JENDL 本委員会に提出した配布資料(1)に基づき、作業状況の確認を行った。A=118 (喜多尾、神戸) は、評価作業を進めているが、終了までまだ時間がかかる。A=120 (橋爪) は、評価作業の手始めとして、文献収集を行った。A=126 (飯村、片倉、大矢) は文献を収集し、 ^{126}In , ^{126}Sn の γ 線を評価中である。また、 ^{126}Sn で最近測られた半減期 ($1.98 \times 10^5 \text{ y}$) が従来の値とかなり異なることについて、どの値を採用すべきか議論した。

(2) 評価者ネットワーク会議の報告

平成 24 年 4 月に IAEA で開かれた評価者ネットワーク会議に参加した片倉委員が、スライドを用いて会議の概要を報告した。参加者は 40 人程度で過去最大であった。特に、IAEA が評価手法を教えるワークショップをインドで行ったことにより、インドからの参加者が多かった。IAEA の評価者ネットワークの担当が Abriola から Dimitriou に変わった。日本の評価者の人数 (FTE) を 0.5 から 0.2 に変更した。

(3) 評価手法の確認

評価者ネットワーク会議で決まった評価手法の変更点を BNL が連絡してきたので (配布資料 2)、それらを確認した。変更点の一つとして、 γ 線の寿命から多重極度を定める基準が変わる予定である。また、半減期を決める際の方針も新しくなる予定である。その他、スピンの決まらなくても、それについて情報がある時は、コメントに記述することが推奨されている。

また、準位からの脱励起 γ 線が 1 本である時に、相対強度を 100 と記述するか、空欄にしておくべきか議論した。本来、空欄であるべきだが、空欄にしておくとは Reference Input Parameters Library で 0 ととられる問題がある。これについては、ネットワーク会議でも決着していない。議論の結果、日本のグループでは空欄にすることにした。

(4) 新しい質量評価 2012Wa38 について

β 崩壊の $\log ft$ 値を計算するのに使う質量の値は、新しい質量評価 2012Wa38 から採用することを確認した。以前の質量評価は、必要ならコメントに記述する。配布資料 3 により、喜多尾委員が、以前の質量評価と 2012Wa38 との値の違いを説明した。

(5) その他

文献の取得方法や、評価するのに使う計算コードについて情報交換した。